

会長エッセイ

和顔愛語



認定NPO法人 地球市民の会

会長 佐藤 昭二

新春に思う

明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては良いお正月を迎えられた事とお慶び申し上げます。

しかし、ここ数年前より、日本を取りまく国際情勢が著しい悪化を見せて居ります。また国内に於いても、政治、経済、教育と益々国民不在の感が有ります。新春に当たり、この点について考えたいと思います。

昨年暮れに行われた衆議院の政権交代によっての今後に期待するところ大であります。私はこれまで何度も「全てのものに中心があり、中心無きものは消滅する…」と申し上げて来ました。それは物質的のものであれ、精神的のものであれ同じです。政治の世界に於いて、幸か不幸か政権与党として君臨してきた民主党が選挙に於いて惨敗を期しました。民主党という、党員が共有する文章化された党綱領を持たぬ政党であるという事実において、中心が定まらぬ政党であるということを含みじくも示し、成るべくしてなったものと思っております。

ことに国際情勢に於いては、まさしく中心を定め、腹を据えて事に当らねば取り返しのつかぬ事となります。政治の世界に於いて、いや我々の世界に於いて、常に中心は国家であると私は信じています。しかるに数日前、民主党の元総理大臣が、わざわざ隣の中国に赴き、「沖縄県の尖閣諸島は日中間の問題領土とすべきだ」と述べています。私は耳を疑い、そして疑問に思いました。此の方の中心は何処に在るのだろうか？と。

政治家とは世界全体の平和を考えながらも、常に自国民の幸せ＝国益を考えて行動するものと私は思っていました。なぜなら、政治とは「まつりごと」、「間」を釣り合わせる事が仕事ですから、その基準としての中心にあるものは自国民の幸せ＝国益であるべきだと思っていたからです。自国民の幸せをかくも軽く考えているとは、このような政治家が日本の代表的立場として存在することに対し情けない限りです。

しかし、この様な事態になった全ての原因は私達に

ある事を悟らねばなりません。まさに私達の「志」の欠如がこの様な人を選び、この様な形になって現れて来たのであると私は思います。私の云う「志」とは、私達が自分の利益だけを考えるのではなく多くの人の幸せのために生きるという心の持ち方、つまり「地球市民意識」のことです。したがって、この3年3カ月は我々国民に中心が定まらなければ国をも危うくするという大きな学びを与えてくれたと言えるのではないのでしょうか。中心の定まらない、すなわち政治家ならば、自国民の幸せ＝国益を守り実現するという「志」の欠如、私たち自身ならば、広く多くの命の幸せを実現するという「志」の欠如がそれであるということを目の当たりにしたのです。戦後教育の中で「歴史」「宗教」「道徳」が意図的に外され、その社会で育った私達が本当の意味での「人間の幸せとは何か？」を考える時が来たのだと言えます。

いま世界に目を向けると、経済的に苦しんでいる国は沢山あります。しかし、何処よりも最も危機的状況にあるのは日本の様な気がしてなりません。我が国は対外的には、最近若干怪しくなってきましたが、経済大国として名を馳せていますが、一方、内部的には大きな病魔に侵されています。国内に起こっている諸々の犯罪、孤独死や自殺等などの事件を見れば誰でも判断出来る事で有ろうと思えます。他の人の幸せを願う人ばかりだとこのような犯罪や事件は起こりません。利己的な「空気」が社会を覆い、その社会の中で人の気持ちも流され、様々な犯罪・事件の内容が利己的な様相に変わってきています。

起こった事件に対処することも大事ですが、事件の奥にある闇の部分の部分を私達には理解しなければなりません。その原因の大きな要因の一つが正に教育の貧困がもたらしたものであるということです。いま日本を覆う「利己の空気」は従来型の詰め込み式の知識で解決できるものではありません。個人個人の心の中から湧き上がる志と智慧が解決していくものです。戦後教育の中で積み残したものの、つまり個人の幸せのみならず広く「人間の幸せ」を実現するための教育、を取り戻すべく一つひとつみんな拾い集める初年度になったのだと年頭に考えました。